

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016.03.09

言語社会専攻長
日本語・日本文化専攻長 殿
To Dean of Studies in Language and Society
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 教授
氏名 Name	林田理恵
専門分野 Academic Field	ロシア語学・ロシア語教育論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	①ロシア語ヴォイス研究 — 動詞語彙の意味特性との相関 — ②ロシア語アスペクト研究 ③ロシア語教育ネットワーク確立に向けた基盤整備
<p>①ロシア語受動文が言語システム内で不定人称文，語順転換文等，従来，競合するとされてきた他構文といかなる機能分担を行っているか，動詞語彙の意味特性との相関性を考察するため，コーパス等を使って広範囲なデータ収集と共起制限等をめぐる詳細な分析を行った．ロシア語ヴォイス関係のこれまでの論をまとめた著作の刊行を準備中．</p> <p>②Ju.S.マスコフ著「アスペクト論」（全4章，263 p.）について，共訳者との訳語のすり合わせ，索引作成等の最終作業を行い，今夏に初校が整う予定．</p> <p>③1) カリキュラム・教材開発，指導方法，評価システム，さらには就職関連情報等について各機関の教員が共同利用できる教育支援・就職情報サイト構築を科研プロジェクトとして完成．試験運用等を経て，ユーザーからの要望等を反映し，指導案，各機関の活動報告等，サイト内コンテンツをさらに充実させた． 2) 科研プロジェクト研究期間最終年度として，この5年間の研究成果を総括するシンポジウムを12月に開催（於：大阪大学）．科研事業によって構築された教育ネットワークがもたらした成果，2012-2013年実施のロシア語学習者アンケート調査（全国30機関，1114名対象）分析結果によって明らかになった全国ロシア語教育機関における教育体制・カリキュラムの現状と問題点，展望，さらには全国初となるロシア語教育支援・就職情報サイト開設に至る経過報告とその成果等，5年間の科研事業の全成果を発表．フロアーとの議論を通して残された課題を明らかにし，今後のロシア語教育を展望． 3) 3月に5年間の科研プロジェクト全活動をまとめた研究成果最終報告書（278p.）を執筆，編集・発行した． ④国際文化フォーラム，科研プロジェクト「高等学校のロシア語教員に関する縦断的研究：教師養成のための支援体制の確立」（研究代表者：横井幸子，基盤研究(C)）との共同研究成果として，『外国語学習のめやすーロシア語教育用ー』を監修，編集，共同発行した．</p>	